

ドイツ二輪車部品工業会専務理事

ミュラー・ファン・イーセン氏に再会！

林 博 明

昨年12月に約2週間の日程で、ヨーロッパ各地や研究機関および大学等を訪問し、現状における研究状況や今後の国際交流化の可能性について調査する機会を得た。

その日程の中で、昨年11月に国際交流促進事業の一環として、自振協が招へいして日本各地の視察および講演のほか、技研本所にも訪れ、職員と親しく懇談していただいた、ドイツ二輪車部品工業会 (FTV) 専務理事ミュラー・ファン・イーセン (Dr. G. Müller-van Issem) 氏とデュッセルドルフで再びお会いすることができた。

出発直前にアポイントを要請しておいたが連絡がとれず、デュッセルドルフ海外事務所に着いてから再度電話でアポイントを取りつけてもらい実現したものである。

当工業会の事務所は、デュッセルドルフ市内の kaiser swerther 通り (海外事務所から車で約10分の所) の "EBM-HAUS" という4つの団体が同居しているビル内にある。

1階の応接室に通され専務のほか、部品関係を担当している Viktor Kirschner (Dipl Ing) 氏も同席して、およそ1時間余り懇談した。

まず、ドイツでの訪問先である TÜV (技術検査協会) およびアーヘン工科大学の状況を聞いた。TÜV は、ケルンとエッセンにいくつか分散しており、ケルンにあるのは、TÜV Rheinland といい、自転車関係の経験が豊富で前ホーク、ハンドルバー、補助椅子、子供車のほかヘルメットなどについて、主として DIN 規格に基づいたテストを担当している。またエッセンにあるのは、RWTÜV いい、自転車のブレーキ関係や自動車関係の規格判定業務を FTV の協力のもとで携わっている。そして出発前は、エッセンの方のみを訪問する予定であったが、V. Kirschner 氏がケルンの方も事前にコンタクトをとってくれていた。

一方アーヘン工科大学については、ミュラー専務が技研へ来所された折、オステン・ザッケン教授が自転車の研究に携わっており、かなり有名であることを聞

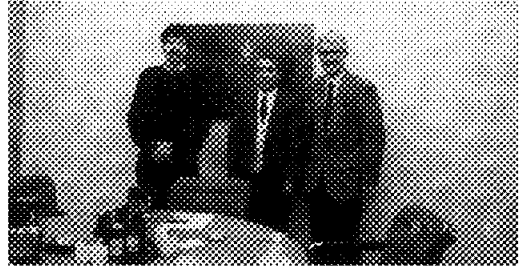


写真 再会したミュラー・ファン・イーセン専務理事(右)

いていたし、学生と協同で自転車の試験方法や専用機などの開発をしているとの情報を得て、訪問への期待を一層つのらせた。

その他にドイツで自転車に関係した仕事をしている所は、ユーベンベルグにある "L. G. A" という検査機関が自転車とか家具などの消費者製品のテストをやっており、DIN の規格委員にもなっている。また東ドイツのカールス・ルーエンには、"F. E. S" という国立の研究機関があり、照明器具関係のテストのほか、スポーツに関係した商品 (ボート、槍、自転車など) の研究開発をやっており、世界選手権用カーボンモノコックフレームをハーキュレス社と協同開発したということであり、今後もっと詳しい調査をする必要がある。

しかし技研本所のような性格をもった所は、ドイツにはほとんどなく、テスト機関が多いようであり、今回の訪問の目的にかなう所は、ドイツにはないが、研究的な面では、アーヘン工科大学が最適で学生ベースで協同でやればうまくいくのではないかと、また試験的な面では、TÜV が適している、などの助言を得ることができた。

そして最後に、今後、技術交流化の実現に向けてのアドバイスや力添えを要請した結果、心よく喜んで協力していきたいとの約束を交わして事務所を後にした。

(筆者は、品質構造研究部長)